

追加型投信 / 内外 / 株式

ファンド情報提供資料  
データ基準日: 2019年9月30日

## 未来イノベーション成長株ファンド 設定来の運用状況と運用主担当者に聞く 当ファンドのポイント

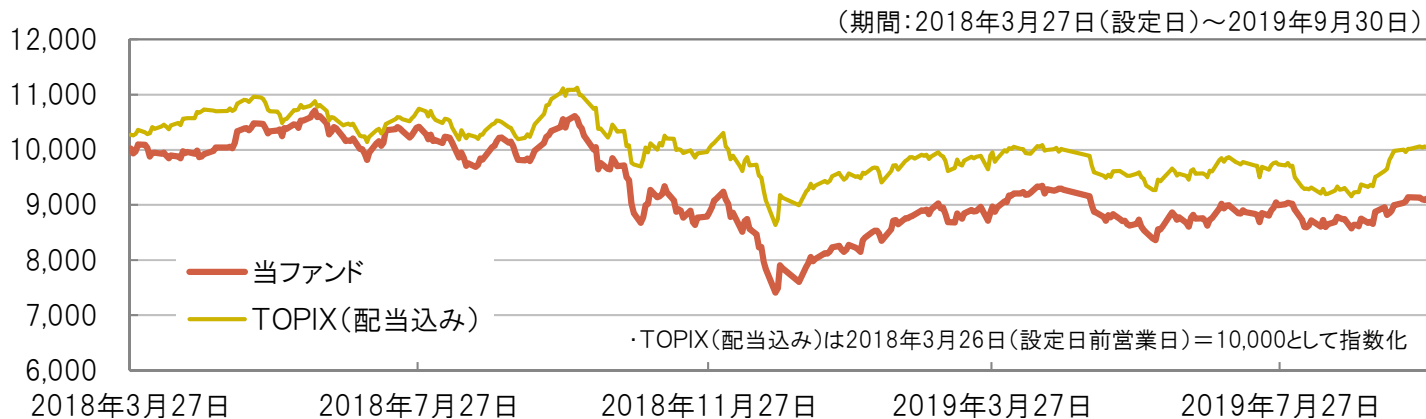
本資料の一部を  
動画\*で  
わかりやすく解説!



\*動画は一定期間経過後、予告なく削除されることがあります。

平素より、「未来イノベーション成長株ファンド」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。  
本レポートでは、当ファンドの設定来の運用状況と、運用主担当者に聞く当ファンドのポイントについてご報告いたします。今後とも引き続き、当ファンドをご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 設定来の基準価額とTOPIXの推移



### 当ファンドとTOPIXの期間別騰落率 (2018年3月27日~2019年9月30日)

期間 比較時点	過去1ヵ月 2019/8/30	過去3ヵ月 2019/6/28	過去6ヵ月 2019/3/29	2019年初来 2018/12/28	過去1年 2018/9/28	設定来 2018/3/27
当ファンド	3.6%	3.4%	1.2%	15.4%	-14.0%	-9.4%
【ご参考】TOPIX(配当込み)	6.0%	3.4%	1.0%	8.8%	-10.4%	-0.6%
【ご参考】差分	-2.4%	0.0%	0.2%	6.6%	-3.6%	-8.7%

・当ファンドの基準価額(1万口当たり)は、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。また、当ファンドは、基準日時点での分配金の支払い実績はありません。・TOPIX(配当込み)は、当ファンドのベンチマークではありませんが、市況推移の参考として掲載しています。指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。・設定来の当ファンドの騰落率は、10,000を起点として計算しており、設定来のTOPIXの騰落率は、2018年3月26日(設定日前営業日)を起点として計算しています。・当ファンドの騰落率と実際の投資者利回りとは異なります。

### 設定から2018年12月末までの運用状況

#### ■国内株式市場の投資環境

国内株式市場は設定から2018年9月末までは一定の水準の中で変動しましたが、2018年10月以降の米国における長期金利上昇によるリスク回避の動きや中国経済減速、世界景気低迷懸念への警戒が企業業績の下方修正懸念へつながり、株式市場は大きく調整しました。

#### ■当ファンドの運用状況

設定日から2018年12月末までの当ファンドの基準価額は、21.5%の下落となりました。基準価額にプラス寄与した主な銘柄は、「D.A.コンソーシアムホールディングス」や「資生堂」等です。一方で、「エムスリー」や「任天堂」等が基準価額にマイナス影響となりました。当ファンドは、米国景気は堅調かつ、中国景気についても預金準備率を引き下げる等の景気対策等を背景に景気失速は回避できると判断し、高成長銘柄を中心としたポートフォリオを維持しました。

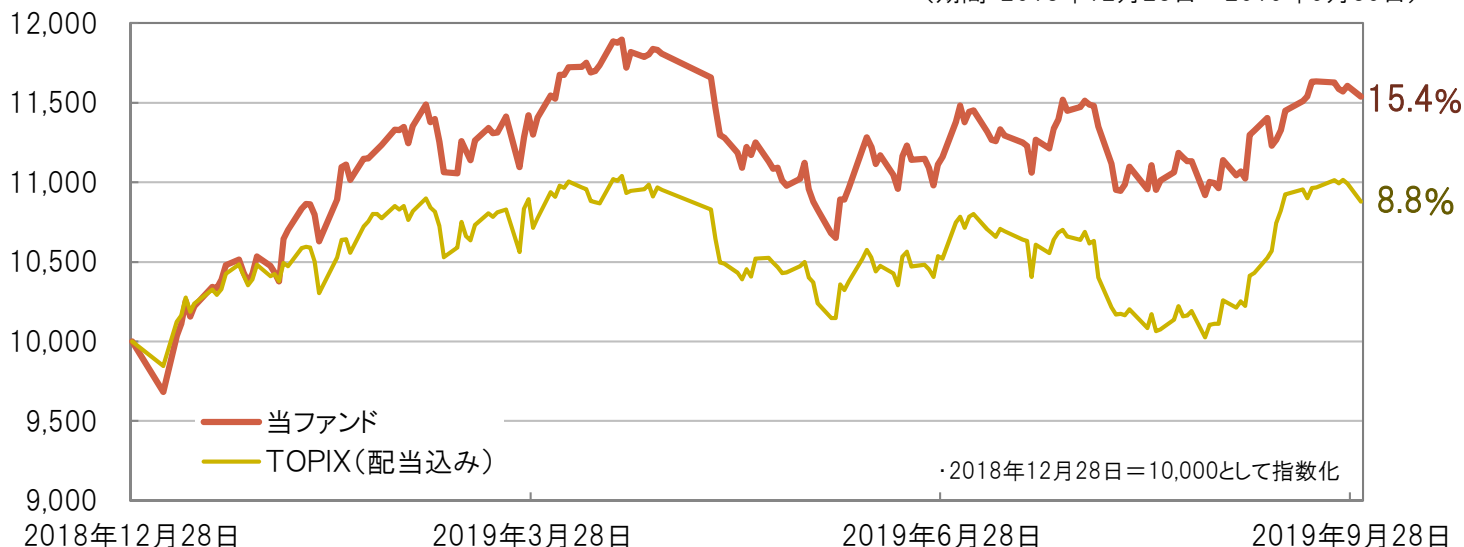
■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

## 未来イノベーション成長株ファンド

## 2019年初来の運用状況

## 2019年初来の基準価額とTOPIXの推移

(期間:2018年12月28日～2019年9月30日)



・当ファンドの基準価額(1万口当たり)は、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。また、当ファンドは、基準日時点での分配金の支払い実績はありません。・TOPIX(配当込み)は、当ファンドのベンチマークではありませんが、市況推移の参考として掲載しています。指数については【本資料で使用している指数について】をご覧ください。・当ファンドの騰落率と実際の投資者利回りとは異なります。

## ■国内株式市場の投資環境

国内株式市場は、米中貿易問題の進展期待やFRB(米連邦準備制度理事会)の利上げに慎重な姿勢が好材料となり、2019年4月下旬まで堅調な展開となりました。その後は、再び、米中貿易問題を巡って一進一退の展開となりました。

## ■当ファンドの運用状況

2019年初来で、当ファンドの基準価額は、組入銘柄の株価が堅調に推移したこと等が貢献し、15.4%の上昇となりました。当ファンドでは、2018年末に大きく株価を下げた高成長銘柄を中心としたポートフォリオを維持しました。

2019年1-3月は2018年10-12月期の決算内容等を材料に個別物色される展開となり、5G需要が顕在

化し始めた「アンリツ」、キャッシュレス拡大の恩恵を受けると考えられる「GMOペイメントゲートウェイ」等2018年末に大きく株価を下げた好業績の成長銘柄が反発し、基準価額は上昇しました。

4-6月は2018年度の決算内容や2019年度の見通し等を背景にIT(情報技術)需要拡大の恩恵を受けると考えられる「日本ユニシス」や炭素繊維の需給改善が見込まれる「東レ」等の株価上昇が寄与しました。

7-9月は中国への追加関税第4弾の動向に左右されましたが、その後米中貿易協議再開のニュースから、上昇に転じました。日経平均株価の構成銘柄に新規採用されると発表された「エムスリー」や、半導体関連需要の下げ止まり等の思惑から「東京エレクトロン」、抗がん剤開発の順調な進捗がみられた「第一三共」等の株価上昇が寄与しました。

■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

## 未来イノベーション成長株ファンド



**Q** どのような体制で運用を行っているのですか？

**A** 総勢27名の運用チームのメンバーが、国内外からの情報を密に連携する仕組みを整え、機動的な運用を実施。(2019年8月30日時点)

### ■国内外の最新情報を捉える運用チーム体制とデータベースによる情報管理

当ファンドの運用チームでの業種・銘柄調査は、国内株式グループ17名、海外株式グループ10名のファンドマネジャー兼アナリストの総勢27名で実施しています。また、企業への取材や決算説明会等で得た情報は、素早く共有するために、共通のデータベースに日々入力し、管理しています。さらに、当社のリサーチ体制として、海外株式に関しては、香港の現地法人4名のアナリストからの情報提供も受けています。

#### 運用チームの企業調査数

(期間:2019年4月1日~2019年8月30日)

		取材等		アナリスト ミーティング	合計
		説明会	説明会 以外		
当社 運用 チーム	国内株式グループ	868	1,280	2,142	4,290
	海外株式グループ	-	227	114	341
【ご参考】香港の 現地法人		-	212	22	234

### ■ミーティングによる運用チームの密な連携

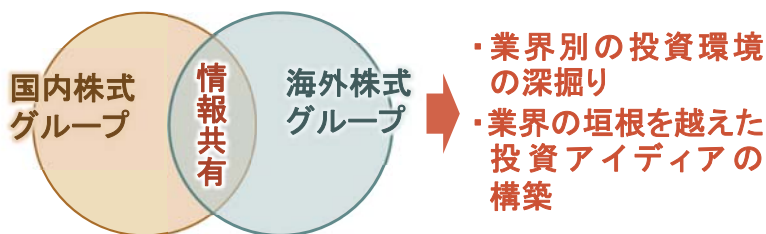
当ファンドの運用主担当者である内田がリーダーを務める国内株式グロスチームは、月・水・金曜日の朝に、朝会と呼ばれるミーティングを行い、対面で情報を共有しています。また、企業決算シーズンはより綿密な情報共有を行うために、毎日、朝会を実施しています。

さらに月次では、海外株式グループ、香港の現地法人を加えた三者でミーティングを行っています。

また、必要に応じて臨時ミーティングを行う場合もあります。先日は、国内株式・海外株式グループと香港の現地法人でTV会議を行い、国内外の半導体関連市場に関する情報を、2019年4-6月期決算や取材内容を踏まえながら、共有しました。その結果、国内株式グロスチームでは、足下の半導体関連市場について、明確な需要回復は見えないものの、市場織り込み以上の新たな悲観もないと判断し、半導体関連銘柄への強気の見方を継続する判断を行いました。中長期の見通しとして、今後、5Gの商用化等に伴い、データセンター等で処理する情報量が増加し、半導体チップの小型化・高性能化が必要となることから、半導体関連銘柄はその恩恵を受けると考えています。

このように、当社内だけでなく、香港の現地法人とも情報を密にすることで、海外の情勢もふまえた業界別の投資環境の深掘りや、業界の垣根を越えた投資アイデアの構築を可能にしています。

#### 情報共有のイメージ



運用担当者  
に聞く

当ファンドのポイント-運用体制について-  
本資料の内容を動画で解説!



\*動画は一定期間経過後、予告なく削除されることがあります。

■運用方針・運用体制は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

## 未来イノベーション成長株ファンド

**ファンドの目的** 日本を含む世界の株式を主要投資対象とし、主として中長期的な値上がり利益の獲得をめざします。

**ファンドの特色**

1

次の時代を創るイノベーション※を捉えることをめざします。

- 次の時代を創るイノベーションを見極め、魅力ある投資テーマを選定します。
  - 投資テーマに基づき、日本を含む世界の未来を牽引する企業へ積極的に投資することで、将来の高い成長を享受し、中長期的な値上がり利益の獲得をめざします。
- ※ 当ファンドにおいては、技術の革新にとどまらず、これまでとは違った新たな考え方、仕組み等を取り入れて、新たな価値を生み出すことをいいます。

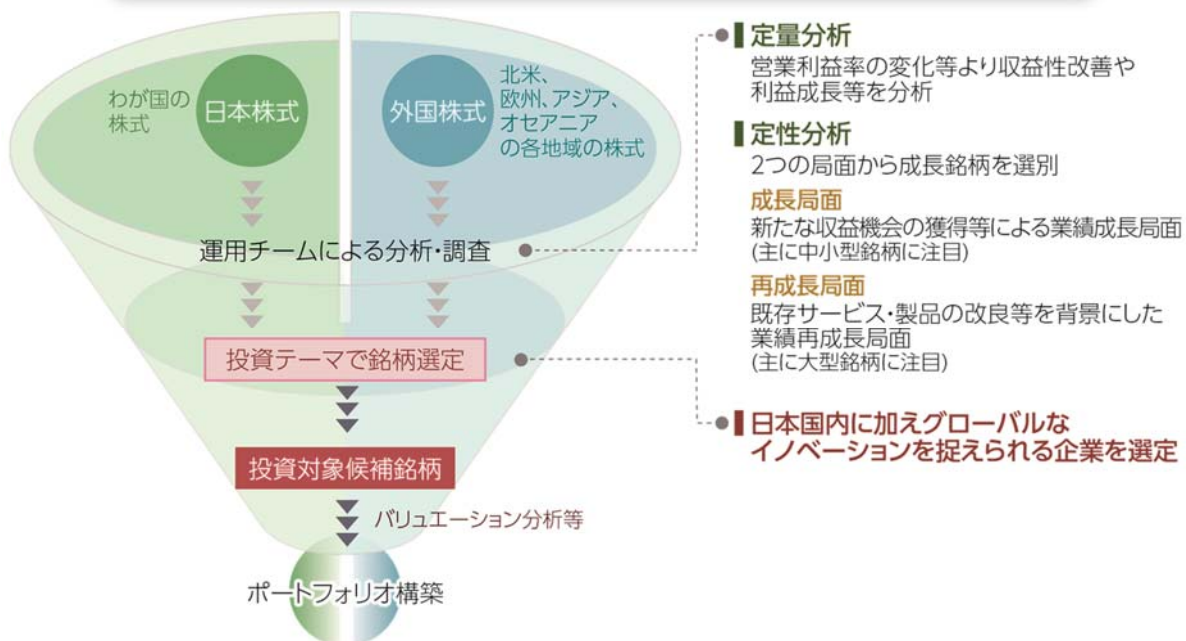
2

日本株を中心に世界の株式に投資を行います。

- ボトムアップ・アプローチによりテーマや産業の分散を意識しながら競争力のある企業を選定します。日本の企業を中心に、日本国内に加えグローバルなイノベーションを捉えられる企業に投資を行います。
- 組入外貨建資産については原則として為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。

「ボトムアップ・アプローチ」とは、投資対象となる個別企業の調査、分析に裏付けられた投資判断をもとに銘柄選定を行い、その積み上げによりポートフォリオを構築していく方法です。

## 運用プロセス



・ 上記は銘柄選定の視点を示したものであり、すべてを網羅するものではありません。また、実際にファンドで投資する銘柄の将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。上記は、2019年6月末現在のプロセスであり、今後変更されることがあります。

3

年1回の決算時(6月20日(休業日の場合は翌営業日))に分配金額を決定します。

- 分配金額は委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。

分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。(基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。)

将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

## 未来イノベーション成長株ファンド

### 投資リスク

#### ■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

#### 価格変動リスク

株式の価格は、株式市場全体の動向のほか、発行企業の業績や業績に対する市場の見通しなどの影響を受けて変動します。組入株式の価格の下落は基準価額の下落要因となります。

#### 為替変動リスク

組入外貨建資産については、為替ヘッジにより為替変動リスクの低減を図りますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。為替ヘッジを行う場合で円金利がヘッジ対象通貨建の金利より低いときには、これらの金利差相当分のヘッジコストがかかることにご留意ください。ただし、為替市場の状況によっては、金利差相当分以上のヘッジコストとなる場合があります。

**上記は主なリスクであり、これらに限定されるものではありません。**

#### ■その他の留意点

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
- 収益分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。収益分配金の支払いは、信託財産から行われます。したがって純資産総額の減少、基準価額の下落要因となります。

#### ■リスクの管理体制

ファンドのコンセプトに沿ったリスクの範囲内で運用を行うとともに運用部から独立した管理担当部署によりリスク運営状況のモニタリング等のリスク管理を行っています。また、定期的に関催されるリスク管理に関する会議体等において、それらの状況の報告を行うほか、必要に応じて改善策を審議しています。

#### 【本資料で使用している指数について】

東証株価指数(TOPIX): 東証株価指数(TOPIX)とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。同指数に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

#### 【本資料に関するご注意事項】

- 本資料は三菱UFJ国際投信が作成した情報提供資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

## 未来イノベーション成長株ファンド

ご購入の際は、投資信託説明書(交付目論見書)でご確認ください。

### お申込みメモ

購入時	<b>購入単位</b> 販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
	<b>購入価額</b> 購入申込受付日の翌営業日の基準価額 ※ 基準価額は1万円当たりで表示されます。
換金時	<b>換金単位</b> 販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
	<b>換金価額</b> 換金申込受付日の翌営業日の基準価額
	<b>換金代金</b> 原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込みについて	<b>申込締切時間</b> 原則として、午後3時まで販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
	<b>換金制限</b> ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
その他	<b>購入・換金申込受付の中止および取消し</b> 金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。 また、信託金の限度額に達しない場合でも、ファンドの運用規模・運用効率等を勘案し、市況動向や資金流入の動向等に応じて、購入のお申込みの受付を中止することがあります。
	<b>信託期間</b> 2028年6月20日まで(2018年3月27日設定)
その他	<b>繰上償還</b> ファンドの受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。
	<b>決算日</b> 毎年6月20日(休業日の場合は翌営業日)
	<b>収益分配</b> 年1回の決算時に分配金額を決定します。(分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。) 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。

その他	<b>課税関係</b> 課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人投資者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となる場合があります。
-----	--

### ファンドの費用

◎お客さまが直接的に負担する費用

購入時	<b>購入時手数料</b>	購入価額に対して、 <b>上限3.30%(税抜3.00%)</b> 販売会社が定めます。 くわしくは、販売会社にご確認ください。
換金時	<b>信託財産留保額</b>	ありません。

◎お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

保有期間中	<b>運用管理費用(信託報酬)</b>	日々の純資産総額に対して、 <b>年率1.6940%(税抜 年率1.5400%)</b> をかけた額
	<b>その他の費用・手数料</b>	以下の費用・手数料についてもファンドが負担します。 ・ 監査法人に支払われるファンドの監査費用 ・ 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料 ・ 有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用 ・ その他信託事務の処理にかかる諸費用等 ※ 上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

- ※ 運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。毎計算期間の6ヵ月終了時、毎決算時または償還時にファンドから支払われます。
- ※ 上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

委託会社(ファンドの運用の指図等)	三菱UFJ国際投信株式会社
受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)	三菱UFJ信託銀行株式会社
販売会社(購入・換金の取扱い等)	以下の通り

設定・運用 … 三菱UFJ国際投信株式会社  
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号  
 加入協会：一般社団法人投資信託協会  
 一般社団法人日本投資顧問業協会

#### 【販売会社情報一覧】

商号	登録番号等	加入協会
株式会社三菱UFJ銀行(委託金融商品取引業者 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社) (インターネットトレードのみ)	登録金融機関 関東財務局長(登金)第5号	日本証券業協会／一般社団法人金融先物取引業協会／ 一般社団法人第二種金融商品取引業協会
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2336号	日本証券業協会／一般社団法人日本投資顧問業協会／ 一般社団法人金融先物取引業協会／ 一般社団法人第二種金融商品取引業協会